

「地域の中核、世界の人材」 UNIVERSITY OF YAMANASHI

山梨大学広報[ヴァイン]

July 2009 vol.8

Vine

計画的に学習を
進めるために

—山梨大学のシラバス活用法—

[人物発掘]

菅沼研一 教授

(教育人間科学部美術教育講座)

[びっくあっぷレッスン]

社会医学

[ゼミ紹介]

工学部土木環境工学科 環境保全研究室

サークル紹介/クローズアップびーふる/気になるお店





計画的に学習を進めるために

—山梨大学のシラバス活用法—

シラバスとは、学生の皆さんが科目を選択したり、履修計画を立てたりする際に役に立つ各授業科目の詳細な授業計画です。わが国の大学でもアメリカの大学にならって1990年代くらいから「シラバス」がそれまでの「授業科目要覧」に替わって作られるようになりました。そして、「詳細な授業計画」と呼ばれるにふさわしく、その情報量は格段に増えることになりました。本学のシラバスでも、授業科目名、担当教員名、対象学生、授業の目的および概要、到達目標、授業の方法、成績評価の方法、テキスト、参考書、授業計画の概要、など授業に関するさまざまな情報を提供しています。

ただ、日本版のシラバスは、作成目的や配布対象・時期などの点から後にも触れるように本場アメリカのものとも異なると言われていました。今や、アメリカの「Syllabus」に近づけるのではなく、日本版のカタカナの「シラバス」をどう充実して活用していくかが課題となっているのです。

本学のシラバス充実への取り組み

山梨大学のシラバスは、全学共通教育と専門教育で様式が異なっており、学部間でも異なります。ここでは、全学共通教育のシラバスについて、近年特に追加された項目を中心に、追加された背景や意図を見ておきましょう。

到達目標

18歳人口の半数以上が大学・短期大学に進学するわが国では、「入るのは難しいが、出るのは易しい」といわれてきた大学も、「卒業生がどのような学習成果を獲得しているか」を社会に示していくことが求められています。そして、学生の皆さんが確かな学習成果を得るためには、個々の授業やカリキュラムの目標を理解し、目的意識をもって学習を進めることが重要です。そのため、個々の授業においても「到達目標(工学部専門科目のシラバスでは、「具体的な達成目標」)」欄で、授業を通じて学生の皆さんがどのような成長を遂げてほしいか具体的に示しています。

すでに本誌(No.4~No.7)で紹介してきたとおり、本学の全学共通教育については「全学共通教育の方向性と理念」として基本的な目標を定め、それが目指す学生の皆さんの学習成果を「知識と視野(ちえ)・能力と技能(わざ)・人間性と倫理性(こころ)」の3領域に区分して示してい

ます。それを受けて、個々の授業科目の到達目標も、授業の内容や方法(例えば、グループディスカッションや成果の発表など)を通じて学生が何を身につけるのか、この3つの領域毎に記述し、授業担当者がそのうちの目標に重点を置いているかも示しています。その際、教員が何を教えるかという視点から記述するのではなく、「学生が〇〇できるようになる」と表現して、学習の成果を学生の皆さんが容易に理解できるよう配慮しています。

なお、本学では履修登録の際にシラバスをWEB上から閲覧できるようシステム上の配慮をしていますし、授業アンケートでは「到達目標」の達成度を学生の皆さんが自ら振り返る機会を設けています。履修登録から受講の終了まで、何を身につけるのかを意識しながら履修を進められるようなしくみを構築しています。

授業計画の概要

本学の場合、半期に原則として14回の授業が実施されるため、「授業計画の概要」欄には各回の授業の主題・授業内容等が記述されています。科目によっては、2~3回の授業に共通するトピックが記述されているものもあります。この授業計画によって履修する学生は授業がどのような内容で構成され、どのように進められるかをあらかじめ理解した上で履修登録をすることが可能





になります。

なお、シラバスが履修登録をした学生との「契約書」であるとの考え方から、授業計画を途中で変更することを許容しないという大学もあります。また、いくつかの大学評価機関ではそのような立場にたった評価を行っている場合もあります。たしかにアメリカの大学のSyllabusはそのように位置づけられていますが、先ほども書いたように作成・配布時期はわが国のシラバスと大きく異なり、受講する学生にのみ授業の初回に配られるのが一般的なようです。他方、本学のシラバスでは、授業によって学生の反応を見ながら内容を変更せざるをえない場合には「変更の可能性がある」旨記載することとなっています。一般的に、わが国のシラバスは、何ヶ月も前に、どのような学生が何名くらい履修登録をするかも不明（特に履修条件がない場合）な時点で担当教員は作成することになっています。そうした状況で授業計画の変更を授業開始後に一切認めないことには無理があるかもしれません。大学のユニバーサル化とともに学生の多様化の影響を大きく受け、学生の授業への理解力も年々異なるようになってきている現在、履修する学生に保証すべきは授業計画を変更しないことではなく、授業計画を変更しても授業目標を達成することなのではないでしょうか。

成績評価の方法

個々の授業科目の成績は、上述の「到達目標」を学生の皆さんがどの程度達成しているのか、担当教員が評価したものです。したがって「成績評価の方法」は、「到達目標」の達成度を測定する方法でもあります。また近年、学生の皆さんが学習成果を獲得できるよう、1単位の履修に必要とされる授業内・外での学習時間45時間を確保しようとする「単位の実質化」も進められています。この動きにあわせて本学においても成績評価を定期試験だけで行なうのではなく、複数の方法で行なうようになっていきます。定期試験の直前に（だけ）学習させるのではなく、履修期間を通じて授業以外の学習時間を確保しようという意図があります。

本学の全学共通教育科目では、授業の形態により、

1 試験:定期試験

2 試験:中間試験

3 小テスト/レポート課題

4 平常点/受講態度

5 発表/表現等

6 その他

の6つの評価項目から2項目以上を選択して、評価点に占める割合と評価する際の観点（授業理解力、日常的勉強努力、情報収集/整理力、発表、表現力、観察/実験力、など）を記述することとしています。また、例えば小テスト/レポート課題など、ひとつの評価項目を2回以上実施することもあります。そして、全学共通教育については定期試験の評価を50%以下とすることで、上記のように履修期間を通じて学習時間を確保し、単位の実質化を図っています。

このように本学のシラバスは、科目の選択から成績評価にいたるまで、学生の皆さんの学習をサポートする重要な情報源となっています。また、学生による授業アンケートに対して教員がコメントを記入する欄もあり、教員と学生のコミュニケーションの場にもなっています。積極的に活用することで効果的な学習を進める手引となるでしょう。とはいえ、シラバスはあくまでも学生の皆さんの学習を支援する道具のひとつに過ぎません。それにしたがって行なわれる授業も学習を助ける手段に過ぎません。どんなに道具や手段を良くしても、学習するのは学生の皆さん一人ひとりです。学力・実力を手にするかどうかは、皆さんの学習への取り組み次第です。

ところで、同一名称の科目を複数開講している場合やカリキュラムの体系化を進める場合には、教員相互の授業内容を調整したり、工学部専門科目のシラバスに見られるように、事前に履修しておく科目を明示したりする必要もできます。シラバスは教員にとっても貴重な情報源として積極的に活用することが必要であることに変わりありません。

なお、近年の政府審議会答申などの文書には、単位の実質化を進めるにあたって、シラバスに毎回の授業の準備学習や時間外学習の課題を明示することも提言されているようです。今後本学でも検討すべき課題のひとつとなっています。





Suganuma Kenichi

菅沼研一教授

(教育人間科学部美術教育講座)

「最近はストレスが たまることが多い」と お聞きしましたが

そうなのです。手を動かして何かを作っていないと「ストレス」がたまってしまいます。他の仕事で作品がつかれない日が続きますと「イライラ」してきます。でも、そんな時は手を動かすために作品づくりに没頭する時間をつくるように努力しているのですが、この頃なかなか時間につくれません。プツン、爆発しないよう気をつけます。

手を動かすのが好きなのは 若い頃からですか？

高校の頃は絵ばかり描いていました。地方の進学校だったのですが、親が学校から呼び出され「お宅の息子さんは美大に行く」と言って、毎日絵ばかりを描いているけどそれでよいのですか？と言われました。うちの親はその質問に対して「本人にまかせていますので結構です」と答えてもらったときは嬉しかったです。「親が認めてくれたのだ」と。その時は非常に有り難かったです。

高校時代 何か印象に残ったことは？

先ほど友達も作らず一人絵ばかり描いていましたとお話しさせていただきましたが、学業の成績は下がり、いつのまにか私の席が教室の最前列に移動させられていて、ある日倫理社会の先生に授業中「スガヌマ、おまえはデッサンばかりしているのだったら、黒板もデッサンしてみろ」と言われました。ノートも取らずに授業の内容を聞いているのか、いないのかも分からない様子に見かねてそんなことを言われたのでしょう。教室内は爆笑の渦になり非常に恥ずかしい思いをしました。

何故、鑄金美術に 進まれたのですか？

本当は絵かき彫刻家になりたかったのですが、絵や彫刻を作りながら自分の将来の生活が見えてこなかったこともあります。そこで何か無いかと考えたところ、当時、(現在でもそうなのですが)、郷里の盛岡では釜屋の主人は「文化人」として尊敬を集めていま

研究室の平らなところには「書類や作品、仕事の道具をつい置いてしまい、いつも散らかっている」と言う、加熱して溶かした金属を鑄型に流し込んで彫刻をつくる鑄金美術の専門家である「菅沼先生」にお話を伺いました。



発掘人物

た。外国から視察の人たちが結構来たりして、外国との窓が開かれているようにも見えました。それに長男なものですから、当時の考えでは地元に残ることは当たり前になっていたことでした。しかしどうにかして美術を生業として生きて行きたいと願っていました。

また、この時期白磁が美しいと感じた体験があったりして、正直、茶釜や鉄瓶を美しいと思った事はあまりなかったのですが、でも土で挽かれた「鑄型」が白磁に負けずきれいだとは思いました。もともと人としゃべるのが苦手なたちで、鑄型のようなもの言わぬ物を前にして毎日過ごす仕事も良いじゃないかな？と思いました。

高校と大学の違いは 何ですか？

違いですか。大学は「考えて自分で学ぶところ」ですかね。高校までは結論が解っていることを学んできましたが、大学で学ぶことは簡単には結論を得られないことを学びます。ですから、24時間そのことだけ考えて学んで欲しい。しかも自信を持ってね。難しすぎますか？

言い方を変えると「大学は自分の勉強の方法を獲得するためのところ、基礎を作るところ」と言ったらよいでしょうか。

今の学生さんに何か一言

本物を観て欲しいですね。美術館や博物館で本物を観て欲しいですね。

でも、日本人は不思議なところがありますよね。例えば京都や奈良から国宝級のものが東京に来ると列を作って観に行きたがりますが、京都や奈良ではそんな光景を見たことは無いですね。現地に行けば、独り占めするようにじっくりと観ることができますよ。普段そんなに関心を見せないのに、どうしてそうした時のみにあつた現象が起きるのでしょうか。確かに多少お金はかかりますが、現地なら取り巻いている空気、光、歴史の流れまで一緒に体験できるのに。不思議だと思いませんか？

質問と違う方向に向いてしまいましたね。「学生さんに」でしたよね。ともかく本物を観て見る目を育てて欲しいです。

最近ではデジタルでオリジナルに対する考えも変わってきていますが、このようなときですから、デジタルではない本物を観る訓練をして欲しいですね。もっと、美術館や博物館に足を運びましょう。そして、本物を通じて学んでください。

それから、大学生は感覚を磨くには「もう若くないですよ」と言いたいです。感覚を磨く鍛錬ができる時期には限りがあると考えています。それは20歳までだと思っています。それ

以降、慣れはしますが巧くはなりません。発想や感覚的な基礎が固定されてしまいます。ですから、できるだけ早く始め、1分1秒を大切に勉強して下さい。

本物に触れてくださいとは？

日本は世間が認めたものだけを良いものとしている風潮が強いですね。分かりやすいのが例えばブランドのバックなんか。自分自身で認めたものではなく、他の人達が認めたものを良いものとして認めていますよね。それって違う気がするのです。

何故自分自身で感じたものを良いと認めないのでしょうか？今日・明日認められなくても将来認められるものもあると思います。自分自身での基準が無いのです。自分で価値基準を持って評価して欲しいですね。最近の若い人たちは我々のその頃とはだいぶ違い、そうした点は成長していますが、他人の評価なんて参考にするくらいので、自分自身での良いもの、そうでないものの好みを越えた客観的価値基準を作りたいです。それには本物が教えてくれますから。そんなに多くの物を目にし、触れる必要もないと思います。本物には全てがありますから。

高校生に一言

人生の黄金期です。あらゆることを吸収して下さい。受験・受験で辛いかもしれませんが、砂に水がしみこんで行くように知識を吸収し、キラキラした感性を磨ける時期は「今」しかありません。知らぬ間にある日突然そのスピードは落ちますし、将来そうした研鑽をさせまいとする様々な事も生じてきます。出来るだけ多くのことをひたむきに純粋に吸収して下さい。この時期吸収したことが生涯の基盤となります。

自分自身での良いもの、
そうでないものの好みを越えた
客観的価値基準を作りたい。



【略歴】

- 1978年3月 東京芸術大学美術学部卒業
- 1980年3月 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了
- 1981年4月 伊藤美術鑄造
- 1982年4月 山梨大学講師(教育学部)
- 1988年10月 山梨大学助教授(教育学部)
- 1999年4月 山梨大学教授(教育人間科学部)

【専門分野】

美術(鑄金美術)

【研究テーマ】

フルモールド法による鉄鑄造美術・ロストワックス法による銅合金鑄造および貴金属鑄造美術。



Suganuma Kenichi



[担当教員]

医学部社会医学 山縣然太郎教授

【本講義の意義】

社会医学の講義は、学際的に医学を学ぶことができる唯一といってもよい講義です。医学部で学ぶことの中心はもちろん、病気とその治療法についてですが、これらは様々なデータに基づいて判断をくだす非常に自然科学的なプロセスだと言えます。ところが、現代医学はこれら自然科学的アプローチ単独では解決できない種々の問題に直面しています。価値観の多様化や社会構造の変化、また生殖医療や臓器移植など倫理と深く結びつく問題などがその好例であり枚挙に暇がありません。また医師のコミュニケーション能力の問題なども挙げられます。これらの問題に対処するに当たり必要な認識を与えてくれるのは、社会科学・人文科学的な医学でしょう。これからの社会を生きる医師に必要な態度を、自らが考えることで身につけさせてくれる、社会医学の講義は数ある講義の中でも非常に深い意味を持つ講義だと言えます。

社会医学

【講義内容】

本講義の目的は、将来どのような場において保健医療に携わるにしても、一人前の医師として公衆衛生の場で対応できる思考力の涵養と態度、すなわち、Public Health Mindを身につけることです。

その為の知識として、公衆衛生学の歴史と業績、新しい保健学、地域医療学、保健統計の主要指標、衛生行政健康増進、生活習慣病対策、母子保健、学校保健、老人保健、精神保健、感染症、国際保健、AIDS、難病、医療対策、医療費、医療保険、保健関連法規、介護保険、EBM (Evidence based Medicine: 根拠に基づいた医療) などについて学びます。

また、EBMに対応できる資料収集および判断能力の育成とともに、論理的思考力、表現能力などの向上を図る為、講義終盤ではディベートも行います。



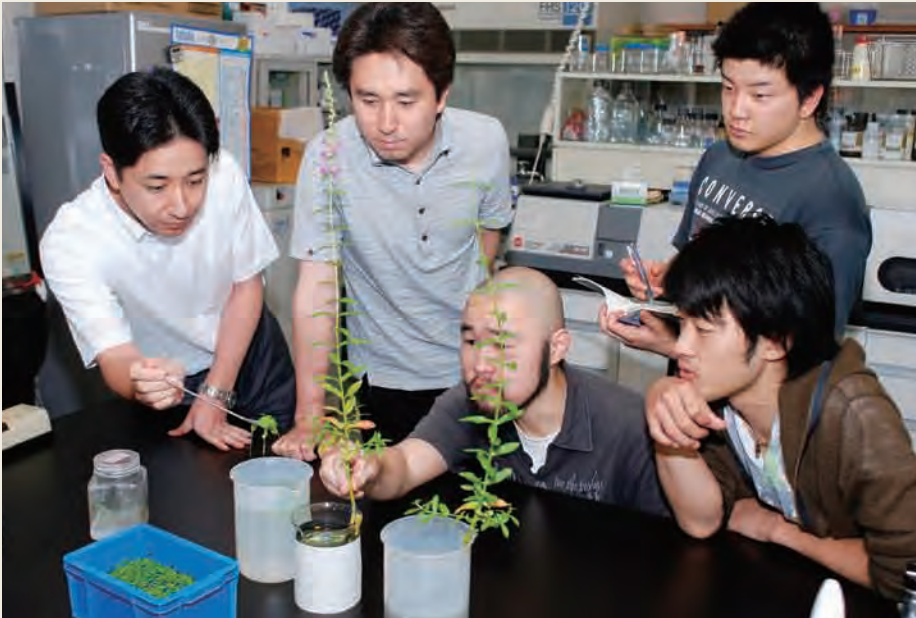
受講生・高村武之さんに聞きました。

講義を受けるまでは社会医学と聞いても「解剖学」や「微生物学」と違って、漠然としかイメージを持つことができませんでした。ところが講義が進むにつれ、社会医学とは、すなわち現代社会で生じているあらゆる医学的問題を含むこと、他の科目とは異なり社会科学的なアプローチ(政治学や経済学など)や人文科学的なアプローチ(哲学や倫理学)をも含むことに気がつきました。また、一人前の医師として現場に立ち続けていくためには、膨大な情報から有用なものを取捨選択、インプットし、そのうえで自分のスタンスを持たなければならないという事がディベートを通して実感できました。

脳死や臓器移植、輸血拒否や出生前診断など現実に生じている問題に答えはなく、各人が論理的に思考し、信念を持って対応していく以外に方法はないと強く感じました。本講義では自身で考える為の道しるべを与えてもらったと思っています。



植物と微生物を使って 環境を浄化する



環境の質を向上させる

環境保全研究室では、植物と微生物を利用して水や土を浄化することに取り組んでいます。植物は、窒素やリン、あるいは金属など、環境汚染の原因となる物質を吸収します。また、微生物は、汚染物質を分解する能力や、無害な物質に変換する能力に優れています。こうした植物と微生物の活動をうまくコントロールすることで、水や土に含まれる汚染物質を、効率よく、しかも低コストで除去する技術を開発しようとしています。このような浄化方法には別のメリットもあります。水や土を浄化しながら植物はどんどん生長していきます。そうして生長した植物を刈り取って、今度はバイオエタノールのような燃料を作る材料として利用するのです。そうすれば、環境をきれいにしながら、エネルギーも得られて、一石二鳥というわけです。

「土木」と「環境」の関わりとは？

土木環境工学科では、「土木工学」と「環境工学」の両方について学ぶことができます。「土木工学」は、橋、道路、鉄道、ダ

ムといった構造物や、上下水道、ガス、電力といった施設まで、人間の生活を支える社会基盤施設を構築するための技術です。一方、「環境工学」は、水・土壌・大気の汚染、自然生態系の破壊、地下水の枯渇、ごみの増大といった問題を解決することで、環境の質を向上させるための技術です。相反する技術のように見えますが、人と自然が調和した社会を実現するためには、人間社会を創造する「土木工学」と関



わることで、「環境工学」の技術を活かすことが大切なのです。

国際的な研究プロジェクト

研究室のメンバーは、毎年ゼミ旅行を企画するほど仲が良く、お互い協力しながら、研究を行っています。研究は、水や土壌をきれいにしてくれる微生物や植物を育て、その効果を調べたり、時には遺伝子を取り出して、生物の働きを調べたりすることもあります。また、研究室で開発した技術を実際の問題に応用することも行っています。たとえば、水質汚濁の進んだ中国の湖を対象として日本と中国の研究者が共同で研究を行なう国際プロジェクトや、山中湖の水質を改善するための山梨県のプロジェクトなども、この研究室のメンバーが中心となって進めています。

研究室の卒業生は、公務員、水処理を専門とする会社、環境系のコンサルタント会社などに就職し、地域または地球規模での環境の維持管理に取り組んでいます。

あなたの心にお届け! V.I.Pの紹介!

バレーボールサークル

V.I.P

V.I.Pというサークルの歴史はカッコつけて『創立10周年!』と言いたいのですが、創立は2008年の1月。山梨大学の中では間違いなく新進のサークルです。ところがまだたったの1年半ではありますが、『楽しいことがしたい!』の一心で活動を続け、そういった努力が着々と実を結んだのかサークルの人数は増え、大学の正門もいつの間にか新しくなりました。

サークル内には中・高とやってきたバレー経験者もいますし、逆に全くの初心者も男女問わず参加しています。その中でV.I.Pの特徴として取り組んでいることは、初心者の「上手になりたい!」というアツい気持ちを大歓迎し、時々普

段の活動が終わった後に初心者講習という時間を設け、バレーボールのルール・動き方・アタックの打ち方・ウサギの飼い方などを自由参加と銘打ち、経験者が熱心にレクチャー。右脳を有効に使うことで、バレーボールが2秒で分かる大人の脳力トレーニングが受けられます。皆が仏の心を持ち、時間の許す限り体育館に居残り、誰もが平等にバレーボールを楽しめるように座禅の教えを説き、ウサギの飼育に全力を注ぎます。

活動は土曜日の昼間に3時間程度、体育館には20~30人の選りすぐられた人間が集まります。総員が200人を超えたとき城を攻め落とす予定です。

現在の構成メンバーは教育・工学部、さらには山梨県立大学からなど、これから様々な分野に飛び出す心構えのある若者をキャラ濃く揃えています。たまたま全員が草食系なのかガツガツした感ゼロです。

普段の活動以外では学内のスポーツ大会やビーチバレー合宿、BBQなど聞いただけで日焼け確実な灼熱イベントが目白押し!

サークルは単に競技を行うだけの場所ですか?否!大学生活をより多くの仲間と楽しむための、生活のエッセンスであり、間違いなく生活の一部でもあります。特にバレーボールはコミュニケーションが大切な競技なので自然と人と触れ合う機会が多くなりますし、なによりチームの一体感ハンパない!!あのボールが上がった時の、あのボールが相手のコートに落ちた時の...チームとしての喜びは常に『最高』なんですよね。そりゃ楽しいはずだ!

V.I.Pの
最大のウリは
底知れぬ
向上心です!



サークルとしては歴史が浅く新参者ですが、爆発する向上心でこれからもより良いバレーボールサークルにするために精進したいと思います。読んで頂いてありがとうございました。

甲府
Campus



医歯薬看護大会リレーメンバー

こんにちは!山梨大学医学部水泳部です。私たちは現在部員20数名と、少人数ながら和気あいあいと活動を行っています。

皆さん是水泳というと、どんなイメージを思い浮かべるでしょうか?競泳では、言わずと知れた北島康介や、山梨と言えば萩原智子を思い浮かべる人もいるでしょうし、全身運動だからダイエットにも効果的!なんて思い浮かべる人もいます。ちょっとネガティブな面で行くと、日焼けしちゃう!とか、やっぱり恥ずかしい…なんて考える人もいないのでしょうか?

とりあえずイメージは置いておい

水泳部シンボル
Funky Dolphins



水泳部

医学部
Campus

て、私たち水泳部の活動を紹介します!活動日は毎週火・木・金曜日の週3回です。が、週一回からの参加でOKなのがこの部活!部員1人1人が自分のペースで気ままにやっています。もちろん週3回かそれ以上のペースで泳ぎこんでいる人もいます!

目標は各個人にお任せ!部活内でお互いライバル意識を燃やして競泳に励むもよし、エクササイズとして利用するもよし。そのために、練習用のコースはいくつかに分かれて、自分の目的にあった泳ぎができるように日々工夫しています!

練習内容も簡単に紹介しますと、全身の動きを確認しながら泳ぐ=SWIM、脚力をつけるための、いわゆるバタ足=KICK、腕力をつけて、より水を力強くかくことができるようになるPULL。これら3つを基本の練習として、そのほかにも色々なメニューを組み立てながら行っています。

部活以外でも、遠征ついでに各地の観光地を回ったり、冬にはスノーボード合宿があったりと、水泳以外の活動も盛んです。



それぞれのペースで
しっかりと、かつ楽しく。
そんな居心地のいい部活、
それが水泳部です。

クローズアップビーふる

Close-up People

医学部医学科2年 大澤玲於奈さん



「よく遊び、よく学ぼう」をモットーに、部活も勉強も頑張っています。



定期演奏会后、バイオリン奏者たちと。



に…以下略(笑)というパターンが多かったけれど、2年生になってからは専門科目が始まって、将来に直結する内容なので、勉強に対する意欲がより湧き、楽しんで学べるようになってきました。2年生になってからは、基本的には毎日勉強するようにしていますね。

Close-up People 高校時代の生活は？

あまりまじめな高校生活ではありませんでした、授業の間の10分休憩が楽しみで学校行くみたいな感じで…(笑)一度きりの高校生活を一生思い出に残るような充実したものにしてあげようと思っていたので、学祭や部活(吹奏楽)に力を注いでいました。クラスでも部活でも同じようにノリのいい友達が多かったので、本当に楽しい高校生活を送ることができました。そのため高3の時は有り得ないほど大変でしたが…。受験期は、初めから医学部に行きたいと思っていたので生物は得意でしたが、最後まで国語が上がらず苦労しました。

Close-up People 山梨大学の雰囲気や良いところは？

見た目どおり、自然に囲まれてのんびりゆったりした雰囲気です。高校時代友達とこっそり学食食へに行ってみたり、センター試験受けたりと自分にとって一番近い学校だったのでなおさらそう感じるのかもしれないですね。良いところは、1年生の時武田キャンパスで全学科同じキャンパスで授業を受けるので、自分と同じ道を目指す人だけでなく、さまざまな方面を目指している人と接することができることや、部活が活発なので先輩後輩という縦のつながりも持てることなどです。あっ、あと意外に学食のカレーがおいしいです(笑)いい意味での学食っぽさも感じさせつつしっかりした味で…ほとんど毎日のように昼ごはんはカレーでした。今もあまり変わらないですが(笑)



Close-up People どこでよく勉強しますか？ また、どれくらいするのですか？

友達と自宅に集まって勉強会をよく開きます。一人でやるより、みんなでやった方が情報を共有し合ったりできるので、効率よく出来ていると思います。1年生の時は、テスト前日

Close-up People プライベートでは何をしていますか？

「よく遊び、良く学ぼう」をモットーに、平日の夜でも清里に星観に行ったり、河口湖まで缶コーヒーを買いに行ったり、朝までカラオケで歌い続けたりと楽しい毎日を送っています。また、山梨は温泉が多いのであちこち探して友達と行ったりしています。あとボーリングシューズも購入しました。近くにボーリング場があるので、これは1ヶ月で元を取れましたね(笑)あっ、ちゃんと勉強もしていますよ!!

Close-up People 何かはまっていること、趣味はなんですか？

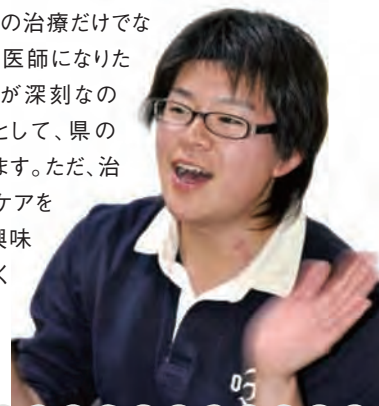
クラシックがすごく好きで、部活はオーケストラに入っています。3歳からバイオリンをやっていて、ボーン歴も4年です。あと、高校時代からマグカップ集めにはまっています(笑)現在50個近く集めました。雑貨屋さんに行くと、取りあえずマグカップを見てしまいますね。

Close-up People 部活はどんな感じですか？

オーケストラでは、バイオリンと、去年から指揮もやっています。学生指揮は他大学では珍しい伝統で、先輩から教えてもらいながら頑張っています。先輩後輩間の仲もよく、すっかり生活の中心になりました。今は10月の定期演奏会に向け練習中です。

Close-up People 将来はどんな医師になりたいですか？

研究等で新しい治療法を開発していくのではなく、臨床という患者さんに最も近い立場で、病気の治療だけでなく、精神的な支えとなれるような医師になりたいです。近年、小児科医不足が深刻なので、将来は山梨で小児科医として、県の方々の力になりたいと考えています。ただ、治療が困難な人などの精神的なケアを目的とする、緩和ケアなどにも興味があるのでこれから勉強していく上でどの方面へ進むのか考えていきたいと思っています。



French-Bulldog

山梨県中央市若宮25-2 Neo city F1F-2
[電話] 055-274-6262
[定休日] 火曜日
[営業時間] 11:00~14:30
17:30~21:00 (オーダーストップ)



デザートもオイシイ!



マンション1階の店舗



オムライスもオススメ

学生には特典もある オススメのランチ!!

山梨大学医学部キャンパスの正面の住宅街を歩いていると、住宅街の一角に現れるオシャレなお店、それがFrench-Bulldogです。

マンションの一階部分に店舗を構えるという変わった場所にある、隠れ家的存在です。溶岩石の上で焼く石焼ステーキ他、自家農園で採れた野菜を使った彩りのよい豊富なメニューが用意されています。

中でもオススメなのは、お昼のランチ。石焼ステーキランチ、ハンバーグランチ、日替わりランチなど5種類から選んで、997~1417円とお手頃価格!

さらに学生は、注文前に学生証の提示で100円引き+一品サービスという特典も!

季節のフルーツをつかったデザートもオススメです。毎日でも通いたくなるそんなお店、French-Bulldogに足を運んでみてはどうですか?

ケルシェ

山梨県甲府市北口2-4-13
[電話] 055-252-4959
[定休日] 火曜日
[営業時間] 11:30~14:00 (ランチ)
17:00~21:00 (ディナー)



ドイツ料理の老舗でいただく絶品メニュー、 ドイチェ・ビーフシュテークをぜひ一度ご賞味あれ!!

今回は甲府駅北口から徒歩5分の場所にある、本格ドイツ料理のお店「ケルシェ」を取り上げさせて頂きました。

1971年創業のこのお店には、本場ドイツで修業したシェフ自慢の料理が数々あります。中でもドイチェ・ビーフシュテーク(ハンバーグ・ステーキ)は絶品で、牛肉100%使用、つなぎには卵しか使わないという本格派です。その味はあの故・忌野清志郎さんもこよなく愛したと言われ、家族と共に何度も足を運んでいたとのことでした。また、自然の味を大切にすべく、植物油のみを使用してつくられたジャーマンポテトは、ホクホクというよりもむしろジューシー。とてものどこの良い仕上がりとなっています。その他、自家製ソース、オリジナルワイン、ドイツビールなども取り揃えています。

全国的にもかなり有名なお店で、休日には県外からの家族連れで賑わうそうです。山梨大学の教授も御用達。落ち着いたオシャレな雰囲気の中で、贅沢な一時を満喫しているようです。

ランチでは赤字覚悟の値段でのご奉仕も。このお店を知らずして卒業してしまうのはもったいない!ぜひ一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。まずは「ケルシェ」で検索を!!

オシャレな雰囲気を楽しめます



ホ?リウム満点!味も最高!!



2階建てのカワイイお店

ワイン科学士認定証書授与式



6月18日(木)、ワイン科学研究センターにおいて第2回ワイン科学士認定証書授与式を挙りました。今回ワイン科学士に認定された方々は、社会人技術者向けのワイン技術者再教育コースを修了した県内のワイン技術者7名です。なお、今年度初めて大学院修士課程ワイン科学コースを修了した1名を準ワイン科学士に認定しました。

ワイン科学士とは、日本で唯一のワイン研究機関である本学ワイン科学研究センターがフランスのボルドー大学にない平成20年度から独自に認定しているもので、ブドウ栽培やワイン醸造などの講義・実習を行うワイン技術者再教育コース又は大学院修士ワイン科学コースを修了し、学外のフランス国家資格「エノログ」保有者やボルドー大学の利き酒に関する資格(DUAD)保有者、及びワイン科学研究センター教員で構成する資格認定委員会による官能・利き酒試験、筆記試験に合格した者に与えられる称号です。

「連続市民講座」 受講生募集中!

【日時・場所】

開催日:「スケジュール一覧表」参照
 会場:山梨大学 甲府東キャンパス
 A2-21教室
 定員:330人
 時間:午後1:30~3:00まで
 (午後1時開場)
 受講料:無料

【申込方法】

受講希望日・住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、下記のいずれかの方法で「山梨大学教務課公開講座担当」宛まで送付してください。(事前申込が無くても当日参加可能です。)

◎葉書・封書の宛先
 〒400-8510
 甲府市武田4-4-37
 山梨大学教学支援部教務課

◎電話の場合
 TEL055-220-8043

◎FAXの場合
 FAX055-220-8796

◎電子メールの宛先
 std-admin@yamanashi.ac.jp
 題名は
 「連続市民講座申し込み」

読売新聞社甲府支局と共催で連続市民講座「いのちの輝きに想いを寄せて」を開催しています。

講座では、「いのちの輝き」をテーマとして、生殖補助医療や遺伝子の研究から、「輝き」そのものともいえる人生と芸術、「いのち」を支えるため「いのち」を吹き込まれた生活支援ロボット、食と健康などを取り上げます。第4回まで終了していますが、これから開催される講座がありますので、ぜひご参加ください。

【スケジュール一覧表】

	開催日	講義題目	講師
第1回	4月18日(土)	生命(いのち)の設計図 ~遺伝子は「人間(ヒト)」の設計図か~	竹田 扇教授(医学部)
第2回	5月16日(土)	生命の誕生 ~不妊治療の現状と将来の展望~	平田修司准教授(医学部)
第3回	6月20日(土)	生活支援ロボット ~人の生活・命を支援する機械たち~	小谷信司准教授(工学部)
第4回	7月18日(土)	命を支える食育と健康 ~魚と野菜、日本型食生活を見直そう~	中村美知子教授(医学部)
第5回	9月19日(土)	いのちと水、そして生活 ~水は生命にとってなぜ大切なのか~	坂本 康教授(工学部)
第6回	10月17日(土)	健康づくりと運動 ~生きることは動くことLife is Motion~	小山勝弘准教授 (教育人間科学部)
第7回	11月21日(土)	生活に役立つ微生物 ~小さな生き物たちの神秘的な世界~	早川正幸教授(工学部)
第8回	12月19日(土)	子どもが考える命と心 ~雲に心と命を見出す知的活動とは~	進藤聡彦教授 (教育人間科学部)
第9回	平成22年 2月20日(土)	“いのち”ある造形 ~「動く作品」の見方ととらえ方~	村松俊夫教授 (教育人間科学部)
第10回	平成22年 3月20日(土)	脳科学が拓く可能性 ~アンチエイジングと心の輝き~	布村明彦准教授(医学部)

*講座の内容等は、ホームページをご覧ください。

(http://www.yamanashi.ac.jp/modules/extension_courses/index.php?content_id=2)

編集後記

Vine vol.8をお届けいたします。7月です。そろそろ前期の疲れが溜まってきた頃でしょうか。こうした時にタイムリーな爽やかな内容の記事を皆さんにお届けいたします。大学も新年度に入り、大分落ち着きを見せて参りました。今号では「計画的に学習を進めるために-山梨大学のシラバス活用法」と題して、日ごろ馴染みがあり、知っているつもり「電子シラバス」の目的と意義、さらにはその活用法を改めて特集として載せました。

普段は山梨大学という総称体として大学は捉えられがちですが、しかし大学の中を隅々までみてみれば、いろいろなスタッフ、いろいろな学生、いろいろな取り組み、行事や活動があります。それらを1つ1つ取り上げ、大学の内外の皆様に紹介していくのが本誌の重要な役目かと思えます。

3年目を向かえる「山梨大学広報誌Vine」ですが今後もうかがい最上よろしくお願ひします。

広報誌専門委員会委員長 古家貴雄

表紙作品の紹介



タイトル「見つけた!」

加藤 央、橘 彩加
 埴 史織、村山莉穂
 横山千草

教育人間科学部
 美術教育専修1年

山梨大学広報「ヴァイン」 July 2009 vol.8

発行者:山梨大学広報誌専門委員会

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務・広報課広報グループ

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8024

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>

